二〇一八年度 北海道公立高校入試問題

四五分
六〇点

（注）問いのうち、字数が指示されているものについては、句読点や符号も字数に含めて答えなさい。

一

次の問いに答えなさい。

問一　(1)〜(4)の――線部の読みを書きなさい。

(1) ピカソはスペイン出身の著名な画家だ。

(2) 高校生の棋士が主人公の小説が人気だ。

(3) ランナーは沿道からの声援に奮い立った。

(4) 好きな音楽を聴きながら憩いのひとときを過ごす。

問二　(1)〜(4)の――線部を漢字で書きなさい。

(1) アサガオのつるがふくざつにからみ合っている。

(2) 私たちの地域ではあいさつ運動をすいしんしている。

(1)	(2)	(3)	(4)
		い	い

(1)	(2)

(3) 風に乗ってタンポポの綿毛が遠くまでとばされる。

(4) 犬も歩けばぼうに当たるということわざがある。

ばされる

問三　行書で書かれた次の文字を見て、(1)、(2)に答えなさい。

(1) この文字の「へん」忄を楷書で正しく丁寧に書きなさい。

(2) この文字の◯で囲んだ部分①、②に表れている行書の特徴の組み合わせとして最も適当なものを、ア～クから選びなさい。

ア　①　点画の省略　②　点画の形の変化
イ　①　点画の省略　②　点画の連続
ウ　①　点画の省略　②　点画の省略
エ　①　点画の省略　②　筆順の変化
オ　①　点画の連続　②　点画の形の変化
カ　①　点画の連続　②　点画の省略
キ　①　点画の連続　②　点画の連続
ク　①　点画の連続　②　筆順の変化

問四　次の文の□に当てはまるように、「よい」という形容詞の活用語尾を書きなさい。

博士は資料を見ながら、どうしたらよ□うと考えていた。

問五　次の文章を読んで、(1)～(3)に答えなさい。

ラクダは不思議な動物です。

背中に大きなコブがあり、その中に多量の脂肪をもっていることは有名ですが、1もうひとつ、砂漠生活に適応した不思議な能力があるのです。それは、自分の体温を外温に合わせて調節できるという能力です。

ある学者が測ってみたところ、ラクダの体温は、一日のうちで三十五度から四十度まで、五度も上下したということです。

なぜ、こんなことをするのでしょうか。

よく調べてみますと、水のない砂漠地帯に生活するラクダは、水分を極度に節約することが必要で、2体温調節も、そのひとつであることがわかったのです。

ふつうの哺乳動物は、外温が上がり暑くなりますと、汗をかいて体温を調節しますが、これは体内から多量の水分を失うことを意味します。ラクダは、そんな水分の消失をすることはできませんから、外温の上昇に合わせて自分の体温を上げ、汗をかくことを防ぐのです。外温に合わせて体温が上がれば、調節の必要がなくなり、汗をかかずにすむからです。同じような意味では、砂漠に出たラクダはほとんど尿を出しません。3ふつうの動物では尿があまり濃くなりますと体によくありませんが、ラクダは平気なのです。

（中川志郎「ほのぼの【どうぶつ苑】」より）

(1)　――線1「もうひとつ、砂漠生活に適応した不思議な能力がある」とありますが、筆者が述べているラクダのこの不思議な能力を、ふつうの哺乳動物との違いが分かるように、次のようにまとめるとき、□①、②に当てはまる表現を、それぞれ文中から書き抜きなさい。ただし、①は六字、②は十五字以上、二十字以内とします。

外温が上がり暑くなると、ふつうの哺乳動物は、①で体温を調節するが、ラクダは、①を防ぐために②ることができる。

① □□□□□□

② □□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

(2)　――線2「体温調節」とありますが、これ以外に、砂漠に出たラクダは、どのようにして水分の消失を防いでいると筆者は述べていますか。解答欄に示した表現につながるように、十字程度で書きなさい。

□□□□□□□□□□□□□□□ようにして防いでいる。

(3)　――線3「ふつうの動物では……ラクダは平気なのです」とありますが、ここで、筆者が言おうとしていることを、次のようにまとめるとき、□に当てはまる表現を、五字以内で書きなさい。

ラクダは、一般的な動物と比べて、ある程度□なっても平気であるということ。

□□□□□

二

次の問いに答えなさい。

問一　(1)、(2)の文から、誤って使われている漢字一字をそれぞれ書き抜き、同じ読みの正しい漢字を書きなさい。

(1)　明日の学級活動で、炊事遠足での各班の持ち物を確任することになった。

誤って使われている漢字 [　]　正しい漢字 [　]

(2)　夏休みの思い出は、大好きな祖父と一緒に昆虫採集に出掛けたことだ。

誤って使われている漢字 [　]　正しい漢字 [　]

問二　次は、漢和辞典の「柔」という字の説明の一部です。[　]で囲んだ熟語に使われている「柔」の意味として最も適当なものを、「漢和辞典の一部」の意味の①～④から選びなさい。また、[　]で囲んだ熟語の読みを書きなさい。

「漢和辞典の一部」

【柔】9画　常用　訓　やわ（らか）・やわ（らかい）

意味
① やわらかい。しなやか。
② よわよわしい。もろい。
③ おだやか。心やさしい。おとなしい。
④ 安心させて手なずける。やわらげる。

[柔和]

意味 [　]　読み [　]

問三　X市に住む中学生の川崎さんが、総合的な学習の時間で、「X市を訪れる観光客を増やすための取り組み」について考えたことを、スライドを提示しながらクラスの中で発表することになりました。次は、川崎さんの発表原稿(A)と、発表のときに提示したスライド(B)です。これらを読んで、(1)、(2)に答えなさい。

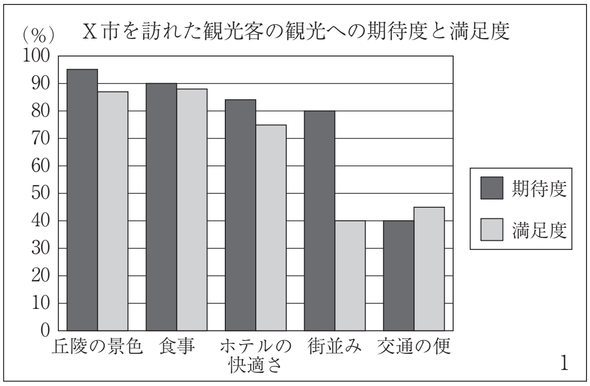
(A)　川崎さんの発表原稿

私は、X市を訪れた観光客の観光への期待度と満足度の両方が高い項目に着目し、今後の課題について考えることにしました。なぜここに着目したかというと、期待度と満足度の両方が高い項目に着目した方がよいと思ったからです。

なお、ここでは、70％以上の項目を高いとして扱うこととします。

期待度も満足度も高かった項目は三つありますが、これらの項目は、X市を訪れる観光客の期待に応えることができたのだと考えられます。期待を満足させられた人は、また来たいと思ったり、他の人にX市の魅力を伝えてくれたりすると思われるので、X市を訪れる観光客を増やすためには、これらの項目の満足度の高さを保つ必要があり、きれいな丘の景色を維持するなどの取り組みが大切だと思います。

(B)　発表のときに提示したスライド



X市を訪れた観光客の声

○　期待度も満足度も高かった人の声（一部）
- 丘の景色が期待以上にきれい。
- 新鮮な海の幸が食べられて満足。
- スイーツの食べ放題に感激。
- ホテルの部屋が清潔で，部屋から見る景色も最高。

○　期待度よりも満足度が低かった人の声（一部）
- 食事はおいしかったが，値段が高い。
- ホテルの部屋が狭い。
- 歴史のある建物が傷んでいて残念。

2

(1) 川崎さんは、発表を聞いた鈴木さんから、――線「期待度と満足度の両方が……よいと思ったからです」の部分が不適切であるという指摘を受けました。その理由として最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

ア　書いてある内容が、発表全体の趣旨とは関係のないものになっているから。

イ　書いてある内容が、二通りの意味に受けとめられ、伝えたいことが明確ではないから。

ウ　書いてある内容が、前の一文で述べていることの根拠となっていないから。

エ　書いてある内容が、前の一文と矛盾していて、論として筋が通らなくなっているから。

(2) 鈴木さんは、川崎さんの発表を聞いたあと、(B)を用いて、川崎さんとは違うことに着目した発表をしようと思いました。あなたが鈴木さんになったつもりで、次の条件1～3にしたがって、発表原稿の一部を書きなさい。

条件1　期待度と満足度の差が最も大きい項目に着目し、どの項目に着目したか明示すること。

条件2　条件1で着目した項目について、期待度と満足度の差が大きいことは、どのようなことを表しているのかについて書くこと。

条件3　X市を訪れる観光客を増やすための取り組みについて、X市を訪れた観光客の声を踏まえて書くこと。

三　次の文章を読んで、問いに答えなさい。

これは、イギリス人の芸術家「リーチ」に弟子入りした十五歳の「亀乃介（かめのすけ）」が、銅版画を刷る手伝いをすることになったときの話です。

横浜港の倉庫に留め置いていた印刷機は、馬車の荷台に載せて運ばれ、人夫が四人がかりで綱をかけ、箱から出されて、どうにかアトリエの床に設置された。

さっそく、リーチが試し刷りをした。入り江に帆船が浮かぶ風景画を銅板に彫り、日本橋で仕入れてきた和紙に刷り上げた。やわらかな風合いの和紙にくっきりと黒い線が浮かび上がり、何とも言えぬ風合いの風景版画が完成した。こんな大きな機械から繊細な版画が生み出されることに、1 亀乃介は目を見張った。

亀乃介は、最初から、刷りの要であるハンドルを回す大役を仰（おお）せつかった。緊張したが、「大丈夫、大丈夫。ゆっくり回せばいいから」と、リーチに声をかけられ、ゆっくり、ゆっくり、ていねいに回した。結果はとてもいい仕上がりだった。

リーチは出来映えにすっかり気をよくして、次々に新しい風景版画を刷った。エッチングという新しい手法に魅了された亀乃介の胸には、自分の絵で印刷したいという気持ちが湧き上がってきた。しかし、銅板や紙やインクなどの高価な材料を無駄にはしたくなかったので、やらせてください、とは言えずにいた。

ところが、数日後、唐突にリーチが言った。

「カメちゃん。君も、エッチングを一枚、2 自分で創ってみたまえ」

亀乃介は驚いた。

エッチングの材料は、貴重なものであり、先生の作品を創るためのものだから、たった一枚でも、自分は無駄にすることはできない。先生のお手伝いをさせていただくだけでも十分です。そう言って、亀乃介は、リーチの申し出を辞退した。

リーチは、しばし考え込む様子になったが、やがて顔を上げると、亀乃介の目を見て言った。

「そういうところが、君のよくないところだ」

君たち日本人は、何につけても相手を思いやり、相手を立てようとする。それは日本人の美徳であるのだと、自分はいつも感激する。けれど、一方で、自分のことを卑下し、何でも遠慮して、こちらの好意を受け取ろうとしない。そうすることが美徳であると、子供の頃からしつけられているのかもしれない。

でも、それは大きな間違いだ。もしも君が、本気で芸術家になろうと考えているのだったら、まず、自分を卑下することをやめなさい。芸術家とは、誇り高き存在だ。お金も家も、何にもなくても、誇りだけはある。それが芸術家というものだ。君がエッチングであれ、何であれ、私がやることにいつも興味を持って接してくれていることは、わかっている。ハンドルを回す君の目は輝いていたじゃないか。だから私は、いつも待っていたんだよ。僕にもやらせてください、と君が言い出すのを。

リーチの言葉に、亀乃介は、3平手打ちをされたような気持ちになった。

――そうだ。先生の言う通りだ。

自分はいつも、自分の中でどんどん大きくなる気持ちに……やってみたい、描いてみたい、創ってみたいという思いに、一生懸命ふたをしてきた。先生がやっていることを真似（まね）て、僕もやってみたいと申し出るなんて、とんでもない、と戒めていた。

でもそれは、自分に自信がないことの裏返しだったんじゃないか。先生のことを、ただただ、うらやましく思って、いじけていただけかもしれない。

亀乃介は、いままで自分の心があまりにも小さく縮こまっていたことに、ようやく気づいた。上気した顔を上げて、リーチの目を見ると、思い切って言った。

「先生。僕は、ほんとうは、エッチングを創ってみたいと思っていました」

先生の作品ができ上がるのを見て、とてもうれしかったし、感心したのもほんとうです。黒のインク一色なのに、海の風景には青を感じるし、山を描いたものには緑を感じました。そのどちらにも風が吹いていました。先生の描かれるものは、全部生き生きして見える。すごいなあ、と。

もしも自分が描いたら、どんなふうになるだろうか。先生のようには描けないに決まってるけど、それでも、描いてみたい、やってみたい。そんな気持ちで、なんだか、うずうずしていました――と、亀乃介は、思いの丈を正直に語った。

「もし、できることなら、僕にも一枚、創らせてください」

お願いします、と頭を下げた。

リーチは、笑顔になって、

「そう。それでいいんだよ、カメちゃん」と、やさしく言った。

「画家で詩人のウィリアム・ブレイクというイギリス人がいる。彼が、とても興味深いことを言っているよ。それはね、こういう言葉だ。

――4『欲望が、創造を生む』。わかるかい？」

初めてその名を聞いたブレイクという芸術家の言葉が、亀乃介の心に触れた。両手で包み込むようにして。

（原田マハ「リーチ先生」より）

（注）アトリエ――画家などの仕事用の部屋。
風合い――手ざわりや見た感じ。
エッチング――銅板を酸で腐食させて銅版画を作る技法。また、その印刷物。
思いの丈――思っている全てのこと。
心に触れた――心に深くしみ入った。

問一　――線1「亀乃介は目を見張った」とありますが、亀乃介がどのようなことに目を見張ったのかを、次のようにまとめるとき、［　］①、②に当てはまる表現を、それぞれ文中から書き抜きなさい。ただし、①は十字、②は二十六字とします。

人夫が［①］てアトリエにどうにか設置した大きな印刷機から、［②］った、繊細な版画が生み出されること。

①［□□□□□□□□□□］

②［□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□］

問二　――線2「自分で創ってみたまえ」とありますが、リーチがこのように言ったのは、印刷機を操作していた亀乃介の様子が、リーチの目にはどのように映っていたからですか。解答欄に示した表現につながるように、二十字程度で書きなさい。

［□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□］ように映っていたから。

問三　――線3「平手打ちをされたような気持ちになった」とありますが、亀乃介がこのような気持ちになったのは、エッチングを創りたいという思いを押さえつけてきた自分の心がどのようなものだったと気づいたからですか。最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

ア　印刷機を上手に操作できるのは、自分をおいて他にはいないと思い上がっていた。
イ　先生のことをうらやましいと思うだけで、自分に自信をもてずに縮こまっていた。
ウ　初心者によるエッチングは高価な材料の無駄遣いだと言われることを恐れていた。
エ　リーチの助手という立場に満足で、芸術家になりたいという願いは全くなかった。

問四　――線4「『欲望が、創造を生む』。わかるかい？」とありますが、リーチはこのとき、亀乃介にどのようなことを伝えようとしていたと考えられますか、四十五字程度で書きなさい。

四　次の文章を読んで、問いに答えなさい。

ある時、狐(きつね)、餌食(えじき)を求めかねて、ここかしこさまよふ所に、烏(からす)、肉(ししむら)をくはへて木の上に居(を)れり。狐、心に思ふやう、われこの肉を取らまほしくおぼえて、烏の居(ゐ)ける木のもとに立ち寄り、「いかに御辺、御身は万(よろづ)の鳥の中にすぐれてうつくしく見えさせおはします。しかりといへども、すこし事足り給(たま)はぬ事とては、御声の鼻声にこそ侍(はべ)れ。ただし、この程世上に申せしは、『御声もことの外によくわたらせ給ふ』など申してこそ候(さふら)へ。あはれ一節聞かまほしうこそ侍れ」と申しければ、烏、この儀を誠と心得て、「さらば声を出(い)ださん」とて口をはたたけるひまに、終(つひ)に肉をおとしぬ。狐、是(これ)を取つて逃げ去りぬ。

そのごとく、人いかに讃(ほ)むるといふとも、いささか真(まこと)と思ふべからず。もしこの事をすこしも信ぜば、慢気出来せん事疑ひなし。人の讃めん時は、謹んでなほ謙(へりくだ)るべし。

（「伊曾保物語」より）

（注）取らまほしくおぼえて――取りたいと思って。
御辺――あなた。
見えさせおはします――いらっしゃいます。
世上――世間の人々。
よくわたらせ給ふ――よくていらっしゃる。
儀――こと。
はたたける――開いた。
慢気出来せん事――おごり高ぶる心が出てくること。

問一　――線「取らまほしく」とありますが、このように思ったのは誰ですか、ア～エから選びなさい。

ア　狐　　イ　烏　　ウ　世間の人々　　エ　作者

問二　文中の狐と烏のやりとりなどを、次のようにまとめるとき、［　］①、②に当てはまる表現を、それぞれ五字以内で書きなさい。

狐が烏に言ったこと

「あなたの姿は多くの鳥の中で特に美しいが、少し不十分な点は、声が［①］ところだ。しかし、世間の人々はあなたの声がよいと言っているので、一声聞きたい」

↓

烏の行動とその結果

狐の言ったことを信じて、「それなら［②］」と口を開いたところ、くわえていた肉を落としてしまった。

①［　　　　　］

②［　　　　　］

問三　この文章で作者は、人が教訓として受けとめるべきことはどのようなことだと述べていますか、最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

ア　たとえ自分が損をしたとしても、困っている人には親切にした方がよいこと。
イ　人に褒められたときは、謙虚になりすぎることなく、自信をもった方がよいこと。
ウ　欲しいものは何でも手に入るという、おごり高ぶった心は捨てなければならないこと。
エ　人に褒められたときは、その言葉をうのみにせず、謙虚でなければならないこと。

二〇一八年度　北海道公立高校入試問題

一

解答

問一、(1) ちょめい　(2) きし　(3) ふる(い)　(4) いこ(い)　問二、(1) 複雑　(2) 推進　(3) 飛(ばされる)　(4) 棒　問三、(1) 忄　(2) オ
問四、かろ　問五、(1) ① 汗をかくこと　② 外温の上昇に合わせて自分の体温を上げ（18字）　(2) ほとんど尿を出さない(ようにして防いでいる。)(同意可)　(3) 尿が濃く(同意可)

解説

問三、(2) ①の部分がひと筆で書かれているが、楷書では二画で書く。また、②の部分が「とめ」になっているが、楷書では「はらい」となる。
問四、直後の「う」は用言の未然形に接続する助動詞。
問五、(1)「砂漠」で「体内から多量の水分を失う」わけにいかないラクダは、「ふつうの哺乳動物」のように「汗をかいて体温を調節」するのではなく、「外温に合わせて」自分で体温を上げたり下げたりしている。(2) 後の「同じような意味では…出しません」に着目する。これも水分を消失しないための工夫であることをおさえる。(3)「ふつうの動物」にとって「体によく」ないことが、「ラクダ」にとっては「平気」だと述べている。

二

解答

問一、(誤って使われている漢字・正しい漢字の順に) (1) 任・認　(2) 租・祖　問二、(意味) ③　(読み) にゅうわ
問三、(1) ウ　(2) (例) 私は、街並みに着目しました。この項目は、X市を訪れる観光客の期待に応えられなかったのだと考えられます。観光客を増やすためには、傷んだところを直すなど歴史のある建物を守っていく取り組みが大切だと思います。

解説

問二、「柔和」は、性質や態度がものやわらかなこと。
問三、⑴「期待度と満足度の両方が高い項目に着目し」た理由について、「よいと思ったから」としている。「よい」と思った根拠が示されず、説得力のない文になっている。⑵ 条件1により、「街並み」に着目した発表にする。川崎さんは「期待度と満足度」を「保つ」ための取り組みを提案しているので、これとは違う視点から、満足度の低さを改善する取り組みを提案するとよい。

三

解答

問一、① 四人がかりで綱をかけ　② やわらかな風合いの和紙にくっきりと黒い線が浮かび上が
問二、印刷機のハンドルを回す亀乃介の目が輝いている(ように映っていたから。)(22字)(同意可)　問三、イ
問四、エッチングを創ってみたいという気持ちを正直に口に出すことが、作品づくりにつながること。(43字)(同意可)

解説

問一、直前の「こんな大きな機械から…生み出されることに」に着目する。「人夫が四人がかり」でないと動かせないような大きな印刷機から、「何とも言えぬ風合い」の「繊細な版画」が生み出されることに、亀乃介は感激している。
問二、この後でリーチは、「ハンドルを回す君の目は…君が言い出すのを」と言っている。「自分の絵で印刷したい」という気持ちが目の輝きに表れているのに、亀乃介がその思いをなかなか訴えてこないので、リーチの方からやってみなさいと促している。
問三、後の「亀乃介は…ようやく気づいた」に着目する。「自分に自信がない」ためにリーチのことを「うらやましく思って、いじけていただけかもしれない」と気づいた亀乃介は、「僕もやってみたい」という思いを押さえ込んでいたことを反省している。
問四、亀乃介が「僕にも…創らせてください」と願い出ると、リーチは「それでいいんだよ」と言っている。創りたいという「欲望」が作品という「創造」物を生み出すと考えているリーチは、亀乃介が「欲望」を言葉にしたことを喜んでいる。

四

解答

問一、ア　問二、①鼻声である　②声を出そう（それぞれ同意可）　問三、エ

解説

問一、「餌食を求めかねて」、烏のくわえていた肉を取ってやろうとしたものを考える。

問二、①烏の「少し不十分な点」について狐は、「御声の鼻声にこそ侍れ」と言っている。②「狐の言ったことを信じ」た烏は、「さらば声を出ださん」と言って「口を開い」ている。

問三、最後の「人の讃めん時は、謹んでなほ謙るべし」という一文に着目する。人に褒められて「慢気」を抱くことをいましめ、褒められても「いささか真と思ふべからず」と述べている。

口語訳

ある時、狐が、食べ物に困り、あちこちさまよっていたところ、烏が、肉をくわえて木の上に居た。狐は、心の中で、あの肉を取りたいと思って、烏の居る木の下に近づいて、「なんとあなたは、多くの鳥の中で特に美しい姿をしていらっしゃいますね。しかしながら、少し不十分な点は、あなたのお声が鼻声であることです。しかし、最近世間の人々は、『お声もことのほかよくていらっしゃる』と申しております。ああ、一声聞かせていただけませんでしょうか」と言うと、烏は、このことを本当だと思い、「それなら声をお聞かせしましょう」と言って口を開いたとたんに、とうとう肉を落としてしまった。狐は、これを取って逃げ去った。

このように、人がいかに褒めたとしても、少しでも本当だと思うべきではない。もしこれを少しでも信じれば、おごり高ぶる心が出てくることは間違いない。人が褒める時は、謙虚でなければならない。